

爪甲鉤彎症(そうこうこうわんしょう)について

爪甲鉤彎症は、足趾爪に生じる爪の変形です。高齢者の第 1 趾に生じることが多いですが、若年者や他の趾爪に生じることがもあります。原因は趾爪を短くし過ぎたり、外傷などで爪甲が脱落すると、足趾先端の隆起を招き、爪甲が伸びるのを妨害して爪が厚くなることです。

症状

- ①爪甲が厚く、硬くなり、経過が長くなると牡蠣殻状となります。
- ②爪甲側縁が皮膚と連続性がなくなり、爪甲と爪床が乖離します。

治療

- ①爪甲の外観を改善するために爪甲を薄く削ります。通常の爪切りでは難しいため、ニッパーで少しずつ切る、またはやすり、グラインダーで薄くします。
- ②爪甲除去術：正常な爪甲を再生させるため、抜爪します。抜爪後、伸縮しない布製絆創膏(テーピングテープ)を趾先端部の隆起部を押し下げないように、就寝中以外はテープ固定を行います。爪甲が再生するまで約 1 年間行くと、約 70% で治癒します。